



自衛隊の今を見直してみよう!



現在の自衛隊は「警察予備隊」として1950年(昭和25年)に組織されてから「保安隊」に改組され……更に1954(昭和29年)には「自衛隊法」が施行されて……陸・海・空の自衛隊が設置されたのです。

「戦争と武力行使を禁じた憲法9条」の下で「日本に対する武力攻撃があった場合には“個別的自衛権”により実力で排除するが、日本が攻撃されていないならば武力を行使することはしない」と政府はずっと言い続けて来た。にも拘わらず、その後～現在(2021年)までのこの30年間に、自衛隊の活動は日米の強い絆の下、その枠を次々とはずされてきている。

- ★ 例えば1991年の湾岸戦争で、米国が「日本はお金は沢山出したが“人”は出さなかった」と批判し日本の役割を強く要求した結果、国連平和維持活動(PKO)として自衛隊をカンボジア、ゴラン高原、東ティモール、ネパール、スーダンなどに出向させたが、一応、憲法9条を盾にして「停戦合意がある地域のみで」「中立的立場で」「身を守る武器だけで」などの制限つきで活動させて、難民支援や災害支援で国際貢献していた。
- ★ 1997年のガイドライン(日米防衛力の指針)によって、「周辺事態法」ができ、自衛隊はアジア太平洋地域で米軍の後方支援をするようになった。
- ★ 2001年の「アメリカ同時多発テロ」で自衛隊は米英の対テロ戦争を支援するため、インド洋での給油活動を2006年までに705回も行った。
- ★ 更に、日本は2003年の「イラク戦争」を支持して、陸上自衛隊を人道復興支援、航空自衛隊を兵站輸送として戦地へ派遣した。

しかし、2015年、安倍政権が国民の反対を押し切って「安全保障関連法案」を成立させた結果、PKOに駆け付け警護任務という武力行使任務が加わった。海上自衛隊の米韓防護や北朝鮮ミサイルに対する米軍のイージス艦に燃料提供をも可能にして、米軍との共同訓練は2012年には854回だったが、2019年までに1245回と増え、米軍防護活動も2017年の8回から2020年の25回と増え、自衛隊は米軍と共に中国や北朝鮮に対して武力で対抗している!?

注目すべきは、防衛費の右肩上がりで(2012年は4.93兆円～2020年は5.70兆円)

米国製高額武器を「言い値」で買い、米国の求めるまま、辺野古基地を造り、更に「敵基地攻ミサイル」の整備を始めて南西諸島に自衛隊のミサイル基地を造って……今や自衛隊は「戦争する軍隊」になりつつある!



今月末の衆議院選挙には戦争反対・憲法九条を守り、防衛費に高額予算を充てるより、「コロナ対策に充てることを主張する候補者に投票しよう!」

【投稿】「選挙について思う事」(M・Y)

組閣されて間もない岸田内閣のもとで衆議院選が行われますが選挙のある度に思い出すのは四十六年前、岐阜に来たばかりの頃、知事選か市長選があり、現役の候補者が再選された。選挙前から殆ど決まっていたような様子に「これが選挙なの?」と驚く私に夫は「岐阜は保守王国と言われているからね」と言った。二十七歳まで北海道小樽で暮らし、二十歳で選挙権をもつてから選挙は殆ど「保革伯仲」が当たり前で即日開票ではなかったと思うが、北海道知事選(自民党||町村氏)社会党||横路氏)の一騎打ちなどは開票が待ちどろしくして息をのんで見守ったものです。それは、国鉄など労働組合の力が反映されたものでした。

岐阜市民として永年投票してきましたが、いつも私たちが有権者の思いが反映されるような結果ではありませんでした。

今回の選挙では野党共闘で「保革伯仲」となり(昔、経験したような)開票が待ちどろしい選挙になって欲しいです。